

10/28(木)

午後6:00開演



罪と罰

原作／ドストエフスキイ 1970年製作、ゴリキー映画スタジオ

ロシア文学講座

11月6日(土) ゴーゴリの文学の世界から
法橋 和彦 (大阪外国語大学教授)

11月13日(土) ツルゲーネフと祖国
天野 和男 (京都大学助教授)

11月20日(土) 『罪と罰』にみる愛の問題
小野 理子 (神戸大学教授)

時間 午後1時30分～3時30分

会場 京都教育文化センター7号室(20日のみ5号室)

受講料 通し 2,000円、一日 800円

定員 40名

前売券
1,000円
1,600円(2回券)
(当1,200円)

ゴーゴリ没後130周年記念

10/29(金)

午後6:00開演



外套

原作／ゴーゴリ 1959年製作 レンフィルム



狂人日記「狼」

原作／ツルゲーネフ 1977年製作 キエフスタジオ



第2回

ロシア文学 名画祭



ドストエフスキイ

チケット取扱い/
各大学生協プレイガイド、
京都書院、
ミレー書房、他

京都教育文化センター・ホール

京大病院南門前 TEL 771-4221

京都市左京区 北白川久保田町24-1 TEL 791-7137

主催／日ソ協会京都府連合会 提供／全ソ映画輸入公団・日本海映画株式会社

●京都映画センター TEL 256-1707

●京都映画サークル協議会 TEL 231-5270



罪と罰

CRIME AND PUNISHMENT

原作／ドストエフスキイ

監督／レフ・クリジャーノフ

主演／ゲオルギー・タラトルキン

ゴーリキー映画スタジオ1970年度 カラー<2時間50分>

ドストエフスキイの四大長篇の第一作である「罪と罰」は、これまでにも世界各国でくり返し映画化が行なわれているが、70年に映画化された、この作品は、ソビエトでは初めての映画化であり、ソ連映画人同盟第一書記をつとめるレフ・クリジャーノフ監督が、10年来の構想を実現し、ドストエフスキイの真髄に迫ろうとした傑作である。

人間はすべて凡人と非凡人に大別でき、非凡人は、その目的が全人類的救済のためならば、地上のあらゆる法律や道徳をも乗り越えられるという超人思想に取りつかれている青年ラスコーリニコフは、この考えに従って、質屋の老婆を殺すことを思いつき、実行する。ところが、予期せぬことから、老婆の妹まであやめてしまい、彼は内心、己れの行為を正当化しながらも、不安と悔恨に苛まれ始める。彼は、貧窮のどん底にある家族を救うために、わが身を賣り、それでもなお、けなげに生きる心やさしい少女ソニヤに出会う。ラスコーリニコフのさ迷える心は、悲しみと苦しみの不幸な生活にもめげずに生きるソニヤの大きく、純粋な愛に初めての安らぎを覚え、彼女の前に跪まずいて、自らの罪を告白する……。

主人公ラスコーリニコフには、ゲオルギー・タラトルキン、ソニヤにタチアナ・ベードワという、ともにレニングラード青年観客劇場の若手俳優が起用されている。

第67期
ロシア語講座

受講生募集
10月12日～⁸³3月16日



外套

THE OVERCOAT

原作／N・V・ゴーゴリ

監督／アレクセイ・バターロフ

主演／ロラン・ブイコフ

レンフィルム1959年度 黒白<1時間20分>

近代ロシア文学のリアリズムを確立した、N・V・ゴーゴリの代表的傑作が、この「外套」である。貧しい小役人の中にかくされた豊かな人間性を描写すると共に、官僚社会の歪みを、ユーモアを込めて鋭く風刺した作品である。

主人公アカーキー・アカーキエビチ・バシマーチキンは、小役人であり、代書係として働いていた。収入は乏しく、独りで粗末な部屋を借り、うすくなった頭髪をなでながら、淋しく暮している。生まれた時からの貧しく、暗い生活が、バシマーチキンを無気力にしていたが、服装も見すぼらしい彼の唯一の夢は、外套を新調することだった。食事や洗濯代、薪代からローソク代など、あらゆるものを節約し、代書のアルバイトをやって、せっせと金をため、新しい外套を買うことができた。ようやくのことで、立派な外套を新調することができ、職場の同僚たちも、外套の新調を祝う会を開いてくれたのも束の間、その帰りに、人通りの少ない場所で、バシマーチキンは強盗に襲われ、あろうことか外套を剥がされてしまった。悲嘆にくれた彼は、警察の高官を訪ねて、何とかして強盗を捕えてほしい、と必死になつて頼みこむが、高官は彼の身すばらしさに呆れ、気嫌悪く、叱り飛ばして追返してしまう。一生にただ一度の幸福を、あつという間に奪われたバシマーチキンは、そのまま病床に伏して、あっけなく死んでしまった。やがて、妙な噂が立ちはじめた。バシマーチキンの幽霊が、夜な夜な淋しい裏通りに出て、人を襲うというのだ——。



獵人日記「狼」

THE LONE WOLF

原作／ツルゲーネフ

監督／ロマン・バラヤン

主演／ミハイル・ゴルボヴィチ

キエフスタジオ1977年度 カラー<1時間20分>

イワン・ツルゲーネフの短篇集「獵人日記」のエピソードのひとつ「狼」を映画化したのが、この作品である。「獵人日記」は、19世紀ロシア文学の代表的な作品のひとつであり、文豪ツルゲーネフが農奴制に下した審判であるとともに、農奴制下のロシアの民衆の生活を広汎に描いた詩的な絵巻でもある。

「狼」は、ひとりの農奴、森番フォーマの物語である。彼は、領主の森を百姓たちの密猟や盜伐から守るよう命ぜられている。事実、フォーマは、森に入りこんで木を切り倒そうとする者に、それが自分と同じような不幸で貧しい農奴たちであろうと、少しの容赦もしなかった。そのためには彼は、この界隈の百姓たちから、「狼」と呼ばれ、魔物のように恐れられていた。幾度かは、逆に、百姓たちから袋だたきにされていたが、それにも屈せず、「狼」は、どんな些細な物音も聞き洩らさず、盗人を見つけ出す名人だった。フォーマは、いつの間にか陰気な男になっていた。妻に逃げられ、二人の子供と暮らす生活。だが、彼は、森をまるで生きもののように愛していた。森にいる限り、彼は幸せだった……。

監督は、新鋭ロマン・バラヤン。計算の行届いた色彩効果と、ドラマとしての起伏を無視し、淡々と積重ねられる映像は、不思議な説得力を持っている。全篇の殆どが、新藤兼人の「裸の島」を連想させるほどのセリフの少なさであることも異色。

前売券は
次の
ところで

京都映画センター・京都映画サークル協議会
各大学生協ブレイガイド・京都書院・ミラー書房
各民主団体・労働組合

●お問い合わせは曰ソ協会
☎791-7137

初級、〈ロシア人専任講師担当コース〉
中級 ○上級 ○会話から入るロシア語

詳しくは曰ソ協会 791-7137まで